# どんどこブック

# 子どものための児童館とＮＰＯの協働事業

# 2007 年度－2010 年度 報告書

www.npo-dondoko.net

【発行】

日本NPOセンター

認定特定非営利活動法人 日本ＮＰＯセンター

www.jnpoc.ne.jp

■　はじめに ..... 3
■　「子どものための児童館とＮＰＯの協働事業」　（通称：ＮＰＯどんどこプロジェクト）とは ..... 4
児童健全育成推進財団が本プロジェクトで目指すこと ..... 5
日本NPOセンターが本プロジェクトで目指すこと ..... 5
実施体制 ..... 5
■　児童館の現状と「NPO どんどこプロジェクト」 ..... 6
■　ＮＰＯどんどこプロジェクト「登場人物」紹介 ..... 7
これまでに事業を実施した児童館 ..... 7
■　ＮＰＯどんどこプロジェクトの事例から ..... 8
事例（1）～京都の巻～　自分の地域の特徴を生かす ..... 8
事例（2）～北九州の巻～　日頃はできない「超」非日常な体験 ..... 10
事例（3）～仙台の巻～　宮城の米にこだわった食育の展開 ..... 12
事例（4）～燕の巻～　地域の人たちをとことん巻き込む ..... 14
事例（5）～金沢の巻～　NPOとの協働事業をきっかけに生まれた「地域子育て支援団体」 ..... 16
■　協働のほんとのところ～はみだしエピソード ..... 18
■　残念ながら実現できなかったプログラム ..... 20
■　「こう考えてみよう」プログラム作りのヒント ..... 21
・子どもたちの声を聞いてみよう ..... 21
・地域にある資源を見てみよう ..... 21
・子どもたちに伝えたいメッセージを考えてみよう ..... 21
■　こんな工夫をしました ..... 22
■　ＮＰＯどんどこプロジェクトの実績 ..... 23
2007年度 ..... 23
2008年度 ..... 24
2009年度 ..... 25
2010年度 ..... 26

## ■ はじめに

### 希望を繋ぐ子どもたち

その日の夕方に向かうはずだった仙台空港が津波に覆われる映像をニュースで見たとき、東四郎丸児童館はどうなっているだろうとの思いがよぎった。

「子どものための児童館とNPOとの協働事業」が始まった年、最初に訪れたのは仙台市郊外にあるこの児童館だった。児童館がある東中田地区の町歩きによる野外学習、ウォークラリーをしながら自然環境や街づくりについて学ぶという、小学生にはちょっと難しいかなと思うイベントだった。遠く蔵王を望む秋晴れの一日、田んぼのあぜ道や路地裏で、子どもたちが興味津々といった風情でNPOのスタッフの説明に耳を傾けている。大人の思い込みは禁物、子どもの好奇心と吸収力はすごいと感心した覚えがある。

京都での豆料理体験、愛宕山登山、北九州での山田緑地自然学習、燕での川下りお泊まり会など、この4年間にいくつかの行事に参加したが、どれをとっても児童館の先生がたやNPO関係者が自身も楽しみながら取り組んでいただいている姿を見た。子どもは敏感、大人の熱意や本気度はすぐに伝わる。この事業が各地で徐々に浸透してきているのは、主催の日本NPOセンター、児童健全育成推進財団のプロモートもさることながら、子どもに一番近いところで向きあう方々の努力の賜だと思う。協賛の立場で資金面の支援を行なっている住友生命福祉事業団としても、この事業の発展を見守っていきたい。

地震から一週間、東四郎丸児童館の小岩館長から無事との知らせが届いた。児童館は被災を免れ、子どもたちも元気だという。周辺地域で多くの方が亡くなっているなか、児童館も避難所になったという。そして、この事業を通じて子どもたちのリーダー格だったグループは率先してボランティアを買って出ているという。素晴らしいこと、子どもの可能性は無限だ。そんな種を蒔けたのだとしたら、それだけでもこの事業の価値がある。

震災で苦境にある児童館も数多いと聞いている。児童健全育成推進財団が呼びかけた児童館活動支援募金に住友生命社会福祉事業団からも僅かながら義捐金を託した。一日も早い復興を祈るとともに、子どもたちが逞しく育っていくことを、いまの時期ほど念願することはない。

財団法人　住友生命社会福祉事業団
福祉担当部長　的場　茂

## ■　「子どものための児童館とＮＰＯの協働事業」（通称：ＮＰＯどんどこプロジェクト）とは

「子どものための児童館とNPOの協働事業」は、全国のNPOがいきいきと活動できる環境を作る活動をしている特定非営利活動法人　日本NPOセンターと、児童館・放課後児童クラブ・母親クラブを応援し、子どもたちの健全育成を支える財団法人児童健全育成推進財団が、2007 年から実施しているプロジェクトです。

子育てをめぐる環境が、多様なライフスタイルの広がる現代に適応できていないという指摘は、数年来訴えられ続け、学校や子育て活動に取り組む団体も、さまざまな工夫を行っています。
そのような中で、個々人が、自身の能力やチャンスを犠牲にすることなく、次世代が健全に育つ環境を作るためには、「地域ぐるみで共に支え育ちあう」仕組みを、多様な主体の「連携」で作り出すことが不可欠であると言われています。
そこで、行政の縦割りを超えて地域の課題に主体的に取り組んできたNPOと、子どもの拠点として活動してきた児童館との連携によって、子どもが地域の課題に触れる機会を提供し、子どもたちと地域が共に気付き、学びあう環境を作ることを目指して、本プロジェクトの取り組みが始まりました。
初年度に、この新しい取り組みが太鼓をみんなで打ち鳴らすように「どんどこどんどこ」広がるようにと、「NPOどんどこプロジェクト」という通称をつけました。

プロジェクトの初年度は児童館もNPOも、コーディネートする側も、全員が「未知との遭遇」状態。児童館の先生方もNPOのスタッフも、互いの存在は知っていても、何をするところなのか、どんな組織なのか、どんなことができるのか、詳しいことは何も知りませんでした。
まったく「0」からのスタートで、事業を進める中で新たな気付きを得たり、時には衝突したりしながら、少しずつ信頼関係を構築し、やがて次々と子どもの笑顔が溢れる、新しいプログラムがまさに「どんどこ」と生み出されていきました。

当初 4 年間はモデル地区を指定して、各地で試行錯誤をしながら取り組みを進めてきました。
これから先はさらに多くの地域でどんどこと児童館とNPOの協働が進むことを願って、これまでの取り組みの中で特徴的なものや、ポイントなどをまとめました。
ぜひご覧いただき、より多くのプログラムが生み出されればと願っています。

## 児童健全育成推進財団が本プロジェクトで目指すこと

児童館は児童福祉法に規定された児童福祉施設です。現在、全国に 4、700 か所あり、 子どもたちの「遊びを通した健全育成」を専門とする施設です。特に最近では、 子育ての社会化をすすめるために、地域における子育て支援活動が期待されています。

しかし、子どもを狙う犯罪の増加や保護者意識の変化などにより、子どもの生活のほとんどを学校 と家庭だけで完結する仕組みが進められようとしています。また、子どもの育ちに 対しての軽視からか、児童館は指定管理者制度による運営が増加し、活動の幅に 限界を感じている施設が多くなってきています。

子どもは「地域」で、「多様な出会い」により、育っていきます。地域に根づいた児童館とNPOがタッグを組んで、新たな価値を創造することができればと思っています。

## 日本ＮＰＯセンターが本プロジェクトで目指すこと

NPOが注目される契機の1つとなった、NPO法成立から9年が立ちました。NPO法人数は3万を超え、ある一定の認知を得たといえます。一方でNPO法成立前から、民間による公益活動を支えてきた既存の組織と、NPOの交流は、一部の分野別の協力関係を除いては見られませんでした。

しかしこの先、市民社会を作っていくためには、既存の施設や古くから活動をしている団体と、この 10 年の新たなムーブメントとしてのNPOの、分野や成り立ちを超えた非営利組織同志の協働、そして、次の時代の担い手である子どもたちの成長が欠かせません。そのための協働の対象には、さまざまな組織がありますが、今年度は全国的に波及することが期待できる児童館をパートナーとしました。

このプロジェクトを契機に、さまざまな非営利組織間の協働が生まれることを目指し、地域社会に目を向けることのできる子どもたちが増えることを期待します。

## 実施体制

■主催：特定非営利活動法人日本NPOセンター
■共催：財団法人児童健全育成推進財団 （2010年度から協力）
■協力：特定非営利活動法人せんだい・みやぎNPOセンター
特定非営利活動法人新潟 NPO 協会 （2009年度から）
特定非営利活動法人いしかわ市民活動ネットワーキングセンター
特定非営利活動法人きょうとNPOセンター （2008年度から）
特定非営利活動法人ふくおかNPOセンター
特定非営利活動法人奈良NPOセンター （2009年度まで）
■協賛：財団法人住友生命社会福祉事業団

## ■ 児童館の現状と「NPO どんどこプロジェクト」

今、子どもたちはどのような地域での生活を送っているのでしょうか。子どもの生活を大きく3つにわけると、学校・家庭・地域と言えると思います。学校はゆとり教育からの転換で授業数も増加しています。家庭に居場所が無いと感じる子どももいます。残された地域生活はその両方をつなぎ合わせ、第三の領域として、重要な役割を果たすと考えられてきました。児童館は、地域に立脚した第三の居場所として、子どもが地域生活を過ごす拠点としての役割を長きにわたって果たしてきましたのです。

2011 年 3 月 31 日、児童館にとって画期的な出来事がありました。それは、厚生労働省から、国としての児童館に期待する内容を示した「児童館ガイドライン」が発出されたことです。

子ども・子育てに関する課題が山積する中、新たな仕組みづくりが国で検討され、社会的にも注目が集まっています。その中で児童館が持っている機能・役割を存分に発揮し、本当に必要とされる施設となるためには、ある程度のガイドラインが希求されていました。

残念ながら児童館は少子化や建物の老朽化の中で数を減らし続けています。加えて、“全ての0～18歳未満を対象とする”という網羅性や継続性の観点が、理解されづらい側面があったように思います。

地方財政も厳しい中、児童館の活動自体が縮減傾向にあります。指定管理者制度も進んでいます。ともすれば華やかなイベントを仕掛けることが児童館の仕事のように思われ、あるいは単に施設管理だけが仕事のように捉えられ、本来の「子どもの健全育成」や「地域生活の拠点」としての機能が損なわれているところも若干あるようです。

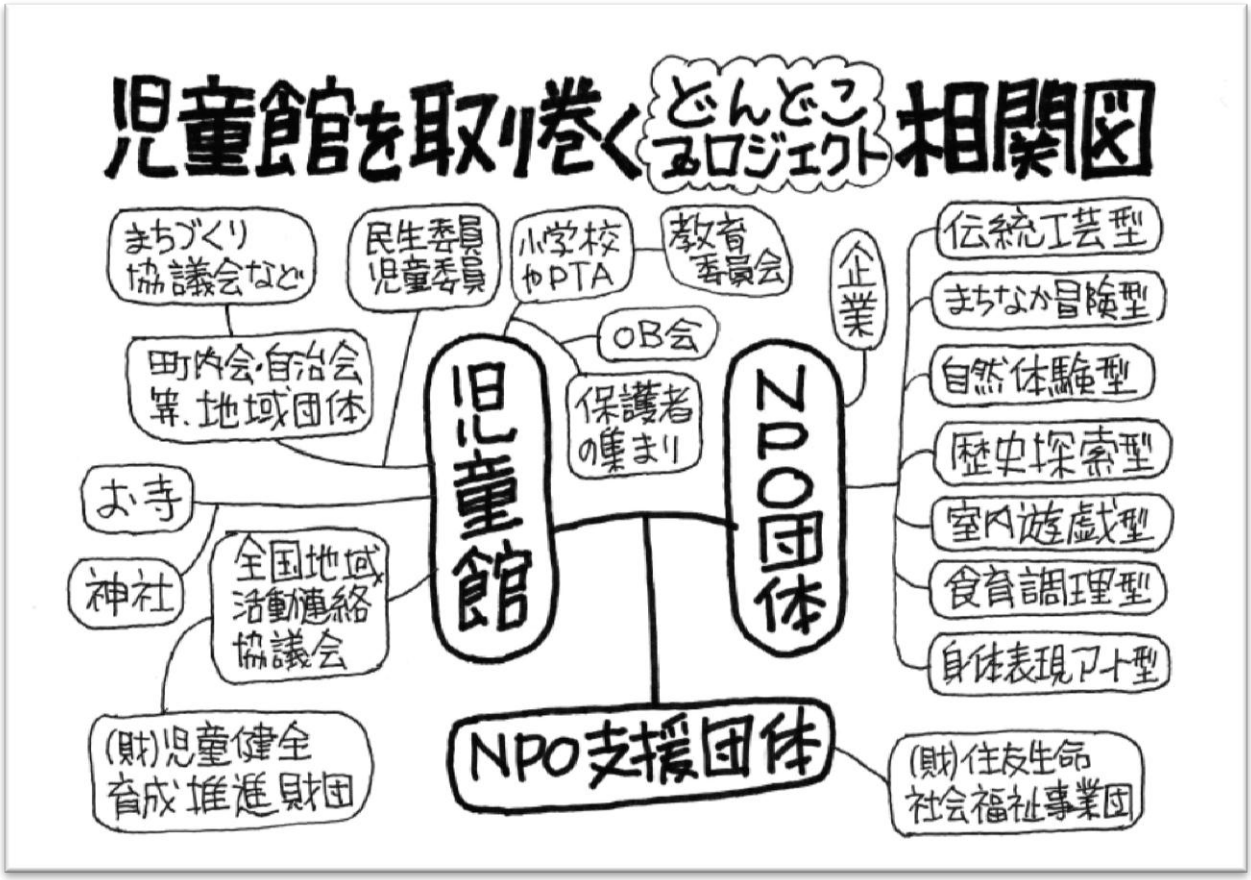
ガイドラインでは、地域住民等によるボランティア活動の受け入れや促進、地域の組織・自在との連携を児童館に求めています。まさに、このどんどこプロジェクトは、ガイドラインにも沿っており、これからの児童館活動において大切な考え方と取り組み方を与えてくれるものです。

———児童館が大切にしてきたことは間違っていないと思います。これまでの「どんどこプロジェクト」の実践からも見えてきました。それは、「遊び」には力があるということです。NPO と児童館の持つ専門性をつなぎ合わせていくところに、「遊び」があり、子どもを楽しませるということだけではなく、大人も活き活きとさせてくれ、地域の全ての人をも元気にさせてくれるのです。児童館は子どもの居場所に留まらない活動が期待できるところなのです。

財団法人　児童健全育成推進財団
阿南健太郎

## ■　ＮＰＯどんどこプロジェクト「登場人物」紹介

NPOどんどこプロジェクトは児童館とNPOの協働だけではなく、それをきっかけに地域にある様々な組織が協力をしてくれました。地域によって特色がありますが、特徴的な「登場人物」を挙げると以下のようになります。




### これまでに事業を実施した児童館

【宮城県仙台市・多賀城市】
- 立町マイスクール児童館
- 荒巻マイスクール児童館
- 東四郎丸児童館
- 通町児童館
- 鶴ヶ谷児童館（多賀城市）

【新潟県燕市】
- 白山町児童館
- 小中川児童館
- 東児童センター
- 杉名児童館

【石川県金沢市】
- 富樫児童館
- 三和児童館
- 浅野町児童館

【京都府京都市】
- 深草児童館
- 西京極児童館
- 嵐山東児童館
- 嵯峨野児童館
- 常磐野児童館
- 西賀茂児童館

【福岡県北九州市】
- 到津児童館
- 南小倉児童館
- 中島児童館
- 三郎丸児童館
- 長浜児童館
- 菅生児童館
- 南曽根児童館
- 横代児童館
- 小嶺児童館
- 楠橋児童館
- 風師児童館
- 大里東児童館
- 大里児童館
- 大里西児童館
- 小嶺児童館
- 楠橋児童館
- 香月児童館

## ■　ＮＰＯどんどこプロジェクトの事例から

### 事例（１）～京都の巻～　自分の地域の特徴を生かす

「伝統工芸品をつくろう」　京都市嵐山東児童館×特定非営利活動法人 京都匠塾

子どもたちに、NPOとは何か？地域社会の中で、様々な社会課題に向き合い、多様に活躍する「大人の姿」を伝えるのは容易なことではありません！ しかし、子どもたちがNPOや市民団体などで活動する日頃出会わない大人たちの思いを感じ、その専門的な知識や技術、物を使う知恵、考えるチカラを学ぶ中で、仲間を大切にする気持ちや、生きていく知恵、工夫する事など、何かを感じるきっかけになる事業にしたいとの児童館の思いがありました。そこで嵐山東児童館では、京都らしく京都の伝統工芸に携わるNPOと「コラボしたい！」を具現化する事業プログラムに取り組むこととしました。

京都府下には、現在1、000団体を超えるNPO法人が活動しています。法人認証を受けていないNPOも含めれば、枚挙に暇がありません。その中でも、京都の伝統・文化を「継承する、伝える、伝えたい」というNPOも多様に活動しています。京都の文化を映像で記録するNPO、京ことばを次世代に残し、語り継ぐNPO、室内合奏団、笑いや言葉を通じて社会貢献を目指すNPO、ふろしきを活かすことを研究テーマに活動を続けているNPOなど、ユニークかつ特筆的なNPOが数多くあります。ただ、全てのNPOが、子どもたちの対応が可能なプログラムを持っている訳ではありません。このような状況のなかでも、「伝統工芸品をつくろう！ －ろくろまわしプログラム」の対応可能なNPOを探すことは、さほど困難なことではありませんでした。それがNPO法人京都匠塾でした。

京都匠塾は「京都に伝承されてきた匠の技を受け継ぎ新しい時代へとつなぐ、若手工芸職人が活躍するために、たくさんの職人が技術を伝承し高めるために、京都の技術や文化をもっともっと世界に知ってもらうために、今、ものづくりを志す職人の『技術の芽』を育てるために、そして、よりすばらしい伝統工芸界を創出するために」をミッション（使命・目的）として結成された京都伝統工芸の技を受け継ぐ若手職人集団です。きょうとNPOセンターも以前からつながりのあった団体であったため、コーディネートもスムーズにできました。

当日は、職人さん3人とろくろ30台、粘土30袋がドカンと子どもたちの前に登場！初めて見る？「ろくろや土」に興味津々。日頃あまり子どもと縁のない職人さんたちも、子どもの食入るような眼差しにいつしか緊張も解けて、一体となって作業が進んでいきました。将来の職人を予感させるほど器用かつ熱心に土をこね、ろくろを回す子どももいれば、出来上がりがどうしても想像できない芸術家肌の子どもいましたが、職人さんたちの熱い思いにささえられ、全員無事なんとか完成へ！

作品は一旦持ち帰られ、窯で焼かれた後、あらためて子どもたちの手に届けられました。その後の子どもたちの歓喜は容易に想像できるものであり、伝統工芸というものを五感で感じることのできる基調な体験となりました。

【この事例の特徴　解説編】

NPOをマッチングコーディネートする場合、児童館ニーズに合ったNPOが見つかっても、本当にマッチングできるかどうかよくよく調べてみないとわかりません。また、マッチングできた場合でも児童館ニーズを100％具体化できない場合もありますが、今回の場合は事前の関係性を含め、かなり高いレベルから交渉が可能だった事例であったと言えます。また、NPO側もこのプログラムに関して深い理解と共感を得ての取組みでした。

経費的には、心ばかりの謝礼と材料費程度で協力を得ることができ、全ての機材を整えて、児童館で実施できたことも大きな特徴であったと言えます。そういゆ意味においては、児童館のニーズを100％実現できただけではなく、NPOにとっても子どもたちへの文化の継承というミッションの実現に向けた意義のある取組みとして位置付てもらえたプログラムであったと考えています。

子どもたちにとっては、興味⇒学習⇒体験⇒成果物獲得かつ「京都らしさ」をイメージしやすい達成感を得やすい楽しいプログラムスキームであったのではないでしょうか！

■この事例のデータ（団体と役割）

開催児童館：京都市嵐山東児童館
（子どものニーズ把握、プログラム立案、事前協議、連絡・調整、
当日会場運営、プログラム終了報告・対応）

協力NPO：特定非営利活動法人京都匠塾
（事前協議、プログラム内容検討、プログラム実施）

コーディネート：特定非営利活動法人きょうとNPOセンター
（マッチングコーディネート、連絡調整、事前協議、プログラム進行補完、
プログラム終了後対応、ホームページアップ、報告業務）

（文：きょうと NPO センター　平尾剛之）

## 事例（２）～北九州の巻～　日頃はできない「超」非日常な体験

「野外活動にチャレンジしよう」　北九州市到津児童館＆南小倉児童館×KID's work

ある日の、NPOと児童館の打合せ風景。
このNPOとは、前年度のプログラムを初めて共にした間柄。お互いに、互いの組織への理解も信頼関係も生まれ、また新たな企画を一緒に取り組むことに。
久しぶりに集まって、その会話の中で・・・

※以下、一部北九州弁も混じっております

児童館「やっぱし、緑の中で自然体験をさせたいんですよね～。」
「日頃、学校でも家庭でも出来ない事もできたらいいなっチ思うんですよね。食材の調理とか、工具を使う作業とか…。」
NPO「こないだ、バヌアツに行って現地の調理方法を学んで来て…ラップラップといいまして、バナナの葉っぱで食材をくるんで蒸し焼きにするというやつで…やってみますか？」
児童館「ラップラップ♥」
「ラップラップ♥」
NPO「じゃ、とりあえず、この辺でバナナの木がある活動場所を探さんとイケンな。(笑)」

こんなやりとりから実現したのが、南洋に浮かぶ島国バヌアツの「ラップラップ」なる調理方法をメインとした体験プログラムです。
このプログラムに限らず、児童館にもNPOにも共通していたポリシーは「全ての工程を子どもたちが体験すること！」。
ラップラップは、食材も道具も全て、自然の産物を生かすため、まずはその調達をすることから要します。つまり、ラップラップは、この両者のポリシーについて、もってこいの手法です！

●当日はまさしくサバイバル！
まだ蒸し暑さの残る9月下旬の朝、北九州市の郊外にある広大な「長野緑地」に集合。魚（スズキ）と鶏肉一羽、蒸し焼きにするためのたくさんの石は、NPOがあらかじめ準備し、それ以外の準備は子どもたちで行います。「それ以外の準備」と一口にいっても、竹を伐り出す／バナナの葉を取りに行く／水を汲んでおく／石を焼くための薪を割る／石を炎が回りやすいような盛り方で積む／ご飯と野菜を調理するためのかまどを作る／ご飯を炊く器を竹で作る／箸を竹で作る／魚の内臓を除く／鶏を解体する／野菜を獲る／野菜を切る…。

盛りりだくさんのプログラムで、ケガもなく終えられたのは、大人たちの指示を漏らさずキャッチして行動していた子どもたちの集中力のたまもの！！
日頃の安全・安心・便利が先立つ生活様式を思うと、気の遠くなるような工程ですが、とにもかくにも、集合早々、それぞれの工程についてチームを組んでいざ着手！チームを作る際は、NPOの「各人がやりたいことをやれる

ように」という提案で、志願制にしました。
前年度、このNPOのプログラムに参加していた子どもたちも複数みられ、彼らは、NPO側が発する指示を、都度、きちんとキャッチしては素早い行動をみせていました。彼らの緊張感が、他の子どもたちにも伝わったのか、終始、全体的に緊張感が漂っていました。児童館の厚生員曰く、「彼らはすっかりこのNPOのファンになってて、“あの人たち、今度いつ来るとー？”と心待ちにしてたんですよ。」

●ハプニングあり、歓声あり、悲鳴あり・・・

午前中一杯、あちこちで複数の工程を同時並行で行っているうちに、ハプニング発覚！どうやら、蒸し焼き用の石の温度がやや低く、NPOの判断で、薪を加え、さらに石を焼き続けました。石焼きチームの子どもたちは、NPOのメンバーの臨機な対応を支えるように動いていました。
食事の時間がややずれ込みましたが、子どもたちは空腹を訴えずに作業に没頭。魚をさばくチームは、日頃、見たことも触ったこともないカラフルな内臓を手にとっては、歓声や悲鳴を上げていました。

●「いただきまぁす！」の後は、リラックスモードへ♪

石焼きの鶏と魚を待つ間、先に出来上がったご飯とバーベキューで食事開始。空腹感が紛れたあたりで、お待ちかねの石焼きの食材も完成し、石焼きチームがお盆に載せてふるまってくれました。日頃口にしている料理からするとシンプルな味ですが、子どもたちからは「あちぃ！」「うまい！」「いけるやん！」「売れる！(笑)」と大好評。現地で環境教育を行う別のNPOが栽培する畑で収穫した野菜類も、すすんで食べていました。
後片付けをキッチリ済ませ、最後に、NPOの先導で、近くを流れる小川で全身濡らしながら沢登り。調理の緊張感から解放されリラックスしたひとときを楽しみました。最後のごあいさつも、元気な声ですがすがしかった！子どもたちの、このプログラムへの姿勢を象徴していました。

●コーディネーターのつ・ぶ・や・き by ふくおかNPOセンター
年々、児童館から出される構想の難易度が、高まる高まる…。でも、これも、NPOとの協働の必要性と面白さを実感されている表れと、むしろ喜ばしく思っています。「やれないことはない！」とまでは言いませんが(笑)、「やれないと思う前に、やれると思って、一緒に創ろう！」という姿勢でチャレンジしていたら、道は拓ける！！

開催児童館：北九州市到津児童館＆南小倉児童館
協力NPO：KID's work（キッズワーク）
　　特定非営利活動法人長野美し村計画実行委員会
コーディネート：特定非営利活動法人　ふくおかNPOセンター

（文：ふくおか NPO センター　古賀桃子）

## 事例（３）～仙台の巻～　宮城の米にこだわった食育の展開

「スローフードな通町　～ぱくぱくプロジェクト～」

仙台市通町児童館×特定非営利活動法人 環境保全米ネットワーク

「早寝、早起き、朝ご飯」このフレーズをよく耳にするようになりました。最近の子どもたちを見ると、「よく体を動かし、よく食べ、よく眠る」という成長期の子どもにとって当たり前で必要不可欠な基本的生活習慣が大きく乱れていると言われています。個々の家庭や子どもの問題として見過ごすことなく、社会全体の問題として地域とともに食育の大切さを子どもたちへ伝えることが重要であることが見直されています。

仙台の取り組みでは、ササニシキやひとめぼれといった米の産地「米どころ宮城」の地方ならではの特性を活かし、米と伝統食や郷土料理にこだわった食育プログラムの展開を通じて、子どもだけではなく、子育て中のお父さん、お母さんといった親も含めて「食」を見つめ直し、その大切さを知る機会を展開することにしました。

今回開催した通町児童館は、仙台市の比較的中心地にあり、小学校に併設されています。そのため調理場所もなく、道路向かいにある幼稚園「みどりの森幼稚園」に調理場所と活動場所を協力していただきました。またそれだけではありません。仙台市内で食に関する活動団体だけではなく、企業にも協力していただきました。

「米どころ宮城」のお米にこだわり食育プログラムを展開した時期が秋です。本領発揮のプログラムが今回の「新米の食べくらべをしよう」です。宮城県内と近県で収穫されたばかりの新米を10種類集めての食べくらべを行いました。宮城県からは、石巻市で収穫された宮城のお米の二大巨頭「ひとめぼれ」と「ササニシキ」をはじめ、登米市の「ミルキークイーン」、色麻町の「たきたて」、栗原市で収穫された「まなむすめ」、岩手県からは一関市で収穫された「陸羽132号」の登場です。このお米は大正10年に作り出された品種で、宮沢賢治の稲作挿話「あすこの田はねえ」の中で、多収穫な米として栽培を奨励する話が出てくる伝説のお米です。秋田県からは、横手市で収穫された秋田の巨頭「あきたこまち」、山形県からは、鶴岡市の日本の巨頭「コシヒカリ」と東根市で収穫された「はえぬき」が登場です。さらに、宮城県名取市で収穫された「ひとめぼれ」に小学生が育てた古代黒米を1割混ぜ込んだスペシャル米も登場です。いずれのお米もNPO法人環境保全米ネットワークに参加している農業者が生産したものを、団体の方が玄米で集め、同じ精米歩合にあわせてくれたベストな状態のお米ばかりです。

さて、電気炊飯器の問題もクリアーしなければなりません。折角のお米を同じ条件で炊き上げなければ食べ比べになりません。同一仕様の電気炊飯器を10台そろえる必要があります。NPO法人せんだい・みやぎNPOセンターが運営しているサポート資源提供システムを活用し、インスパイアー・ザ・ネクストの（株）日立製作所東北支社にお願いし、電気炊飯器10台をNPO法人環境保全米ネットワークに寄贈していただき、このプログラムの

実施が可能になったのです。
ご飯が炊きあがるまでの間に、NPO法人環境保全米ネットワークの横須賀和江さんから、今日試食するお米の話しがありました。各お米の交配の歴史、お米の特性、宮沢賢治と陸羽132号の話し、お米に関するクイズなどを行いました。同じく三浦隆弘さんからは、環境保全米の取り組みの紹介があり、安全なお米の生産のみならず、環境の保全の取り組みなども紹介されました
12時近くになり、ご飯が炊きあがりました。参加者が順番に並び、お米ナンバーの順番に3種類のご飯をお皿にもらい、味、香り、食感、美味しさなどを評価しながら、チェックシートに感想を交えて書き込んでいきます。うーん・・・むずかしい！でも家で食べているのと似ている！！これはあまり美味しくない！納豆とあう！子どもたちから素直なコメントが出されながら、10種類の食べ比べと人気投票を行いました。
一番人気はやはり宮城の「ササニシキ」。地元で生産している農家の人たちを想像しながら、これからお米をたくさん食べよう！と体感できたプログラムでした。

【事例の特徴・解説】
「仙台っていろんなお米があるけど、食べ比べしたら面白いよねー」そんな一言から始まったこのプログラム。
しかし、米の精米状態や炊飯器の条件などを揃える上で、難問ばかり。炊き始めを同じくするために、幼稚園全館の電源を使い、スタッフがあちこち走り回ることも(苦笑)。しかし中間支援組織のシステムを活用し、企業から資源提供をいただいたことによって開催できたプログラムでした。またNPO側にとっては活動のプログラムの一環として、今後県内各地でお米の食べくらべを実施していくそうです。米どころ宮城に大きなインフラを整備することも出来ました。
今回の取り組みは児童館・NPO・地域(幼稚園)・企業・中間支援組織5者の協働で開催できたプログラムとなり、各セクターをうまく巻き込んだ事例となりました。

開催児童館：仙台市通町児童館
協力NPO：特定非営利活動法人環境保全米ネットワーク
協力団体：みどりの森幼稚園、日立製作所東北支社
コーディネート：特定非営利活動法人　せんだい・みやぎNPOセンター

（文：せんだい・みやぎ NPO センター　伊藤浩子）

## 事例（４）～燕の巻～　地域の人たちをとことん巻き込む

「白山町児童館お泊まり会」　燕市白山町児童館×特定非営利活動法人 環境ＮＰＯ良環

■顔の見える地域づくり
どんどこプロジェクトに仲間入りして、2 回目の企画を立てる時、「白山町児童館は、どんどこを通じて、どんな児童館を目指していきましょうね」そんな話をしていて、浮かび上がったキーワードは“顔の見える地域づくり”でした。自然とまちで会って声をかけあえる関係を少しずつでも築いていきたいよね、という想いからです。
燕市の中心部に位置する白山町児童館の周りは、路地裏と小さな工場や商店が立ち並ぶ昔ながらのまちなみです。近年では少子化が進み、児童館への来館児童数も減る一方ですが、家と家、人と人の距離感が近いまちの情景はとても素敵です。

■「野外活動」と「お父さん」
どんどこの始まる前から、地域とのつながりを大切にしてきた白山町児童館には、恒例の「お泊まり会」がありました。今回は、「普段できない野外活動」「お父さんが活躍できる場」を従来のお泊まり会の中に折り込ませ企画をしました。
協働NPOは、NPO法人　環境NPO良環です。燕や隣りの三条市を中心に、小学校等への出前授業を行う、とても実績のある環境団体です。
打ち合わせを 3 度行い、プログラムは、廃油キャンドル作り、竹箸づくり、まき割り、火起こし、飯ごう炊飯、BBQ、銭湯、気もだめし、花火、キャンドルナイトと盛りだくさんのものとなりました。

■ピンポ～ン大作戦

楽しい企画になりそうだと思いつつ、児童館には大きな不安がありました。「近隣住宅から、うるさくて苦情がこないか？煙は大丈夫か？」住宅地の真ん中にある児童館なので、その音や煙は周辺へ筒抜けです。しかし、めげずに乗り越える作戦を先生方は考えます。まず、回覧板です。いつ、どんな活動をやるのか、近隣の方々へお知らせを入れることにしました。そして、新米先生が、ご案内を持って、ご近所を回り、「ピンポ～ン、ごめんください」と、1 軒 1 軒ご挨拶をして回りました。
実は、「なんでNPOの人たちとやるの？ちょっとめんどくさいな～」と思っていた新米先生が、そのピンポ～ン作戦ののち、ガラリと表情が変わりました。「みなさん、快く聞いてくださって。今までのイメージが覆りました。あのお宅のお母さん、なにか手伝ってくれそうでしたよ。」という先生の変化が、コーディネーターとしてはプロジェクトの喜びの一つです。

■充実感あふれる 1 日

そんな先生たちの地域の想いを引き寄せるような行動力が当日の盛り上がりへとつながっていきます。保護者のイキイキとした働きぶり、取材のお兄さんまで子どもたちと夢中に手を動かし、銭湯の入り方指導のおっちゃんも登場、地域のおばあちゃんたちも夜

の花火を楽しみに続々と集まってきます。それぞれが充実した顔をしながら、無事に 1 日が終わりました。
後日談ですが、地域のおばあちゃんが地域のお祭りのように「ご祝儀」を用意していてくれたのだそうです。これで、また子どもたちとの楽しい時間を過ごさせてほしいということでした。気持ちだけ頂いたとのことでしたが、こうして、「またやってね」と思ってもらえる地域企画にすることができたのかと思うと、心がじんわり暖かくなります。

開催児童館：燕市白山町児童館
協力NPO：特定非営利活動法人 環境NPO良環
コーディネート：特定非営利活動法人 新潟NPO協会

（文：新潟 NPO 協会　本間莉恵）

## 事例（５）～金沢の巻～

### ＮＰＯとの協働事業をきっかけに生まれた「地域子育て支援団体」

「意欲・満足・達成感！～秘密にならならない秘密基地プロジェクト～」

金沢市浅野町児童館×ＮＰＯ法人ガイヤ自然学校、冒険遊び場をつくる「自遊創生団」

金沢エコライフくらぶ、コミュニティ・メディア・リソース、地域の大人グループ

●第一期　2007年度(平成19年度)

プログラムづくりの手がかりは、子どもたちの「やりたい事」を聞くことでした。6 月も末の夕方、浅野町児童館にはあらかじめ厚生員の三浦さんから声をかけて頂いた小学5～6年生、男子7名女子2名がいて「秘密基地を作りたい」「ビデオで映画を作りたい」「近所のお宅にお邪魔してご飯を食べたい」などなど、沢山の希望が用意されていました。それに児童館側の「ノンストップで子どもたちを遊ばせたい」という大きな柱がブレンドされ、二泊三日に渡る「基地づくり」をメインに、「地図づくり探検隊」「エコクッキングでキャンドルナイト」「三日間の撮影隊」という、四つの得意分野のNPOが入り乱れてのプログラムが 7 月中旬に完成しました。題して「意欲・満足・達成感！～秘密にならならない秘密基地プロジェクト～」。8月31日（金）から9月2日（日）まで、浅野町児童館隣接の公園で実施されました。

疲れを知らない野生児のような子どもたちの遊び心は次第に広がり、近所のお宅を訪問して食材を調達し、ドラム缶風呂で盛り上り、木登りは女子も得意となって、様々な子どもの変化を見ることができました。公園からの狂喜乱舞の声は、周辺の家庭や子どもの保護者の興味をそそり、外から覗き込んでの観戦も見受けられました。こうして撮影隊による「記録CD」が残され初年度は終了しました。

●第二期　2008 年度(平成20年度)

いささかてんこ盛りで「気力」勝負だった初年度の反省から、二期目は子どもの力をもっと引き出す本格的な秘密基地づくりと、作った基地でのお泊りに加え、夜は地域の大人たちとNPOの交流会も計画しました。題して「もっと地域を！秘密基地プロジェクトPrt2」。8月22日(金)から23日(土)の12時～翌12時までの開催です。二回目ともあって、常連チームは早速ブルーシートで屋根を作り、児童館関係者の方の仕事場から調達できた廃材を切り刻んだ板で周囲を覆い、本格的な基地も作られました。お父さん、お母さんもちらほら参加し、子どもたちも親との交流を楽しみながらノコギリを引いていました。初年度にはない集中した時間が持てたようです。

夜の交流会は「大人テント」の中で開かれました。担当NPOは得意の料理に、地域の現役保護者やOB保護者を招待し、もっぱらNPOについての話で盛り上がりました。

●第三期　2009年度(平成21年度)

三期目は昨年のNPOと地域の大人との交流から生まれた「地域の力」に挑戦してみることにしました。地域の人たちが集めた材料を使って、宿泊ができる程度の基地を公園につくり、大人と子どもたちが協力してカレーライスを作って食べます。NPOは協力団体となりノコギリやトンカチなどの工具の提供にとどまることにしました。タイトルもそのものずばり「地域の力で秘密基地」。8月29日(土)と30日(日)の開催でした。

浅野町児童館周辺の地域の大人グループは児童館現役保護者・OB、学童クラブの保護者など、児童館を軸としたさまざまな地域の大人集団です。コアとなる3人のお父さんの他、廃材だけを持ち込んでくれる方や、差し入れを持ち込んでくれる方など、大人の輪は幾重にも広がっているようです。子どもが完成度の高さに恐れ入って立ち入れないほどの、「基地」というよりは「ハウス」を作り上げた、器用なお父さんもいました。基地の中で、保護者会のお母さんたちと協力して作ったカレーライスの夕食。ドラム缶風呂で汗を流し、眠った子どもの後には、暗闇の中、お父さんたちもドラム缶風呂を楽しみました。

●第四期　2010年度(平成22年度)

こうして三年の「どんどこプロジェクト」が終了し、これまでは主に児童館事業を手伝うだけだった大人集団の力は、「浅野町児童館こつぶっこクラブ父母OB会」として、学童保育保護者OBが中心となり、地域全体に対し、世代を超えて仲間を募る募集チラシを配布し、4年目には組織化されるまでに成長しました。それと平行して、今年度の児童館行事で、父母の協力が必要な夏の行事についても話し合いを開き、夏の親子キャンプや、岐阜県郡上八幡への水遊びバスツアーなどの行事を決めたのです。

今後は、活動費を捻出するための財政的な自立も視野に入れ、「子育て支援ファンド」の助成金に応募しました。まだ正式メンバーは5名ほどですが、今後団体活動の勉強会なども取り入れ、児童館を拠点とした地域の「子育て支援」団体としての活動が期待されています。

【この事例の特徴】

厚生員の三浦さんがこれまで培ってきた、保護者の方々との絆の強さが底辺にあったこと。そして地理的環境として浅野町小学校とも近く、大きな公園に隣接した比較的まち中の児童館であること。さらに、児童館行事に、これまでも保護者（特にお父さん）やOBの方が手伝っていたという実績が大きなポイントです。「自分たちだって組織化すればNPOではないか」。どんどこプログラムをこのように理解したOB保護者の方々が「子どもたちの安全と将来への育成を地域で暖かくサポートしていきたい」という目的を掲げるに至った3年と言うこともできるプログラムでした。

【この事業のデータ(団体と役割)】

開催児童館：金沢市浅野町児童館

協力NPO：NPO法人ガイヤ自然学校、冒険遊び場をつくる「自遊創生団」、金沢エコライフくらぶ
　　コミュニティ・メデア・リソース、地域の大人グループ

コーディネート　特定非営利活動法人　いしかわ市民活動ネットワーキングセンター

（文：いしかわ市民活動ネットワーキングセンター　青海康男）

# 協働のほんとのところ
## ーはみだしエピソードー

初回の打ち合わせは児童館の先生もNPOのスタッフも、中つなぎした関係者も「未知との遭遇」。本当に楽しい事業ができるのか！？みんな最初は不安でいっぱいでした。

打ち合わせで訪問した児童館の、子どもたちの数とテンションの高さに、日ごろ子どもとの接点が少ないNPOの人たちは圧倒されていました。

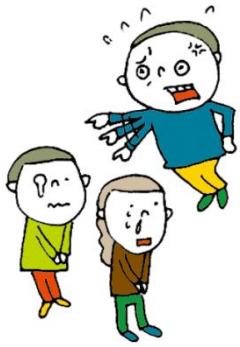
児童館の先生方から湧き出るアイデア！NPOの人はタジタジ。これ、プログラムとしてまとまるの！？

前々からやりたかったことがついに実現できそう！子どもたちより児童館の先生の方が楽しそうですけど。。。

NPOの人のこだわりが強く、説明が詳しすぎて、子どもたちがついていけずに「ぽかーん」。スタッフはハラハラ。
子どもたちに伝わる内容かどうかや、話し方のポイントなど事前の打ち合わせで児童館とNPOとでチェックしましょう。

これまでお付き合いしたことが少ない児童館と NPO が一緒に事業をするとなると、互いの「文化」の違いからくるカルチャーショックや苦労話も多いモノ。協働の現場で見聞きしたはみだしエピソードをご紹介します。

子どもたちのイタズラがすぎて、NPO のおじさんに本気で怒られちゃった。。。
いつもの先生とは違う、知らない人とコミュニケーションする場面は貴重な機会かも。

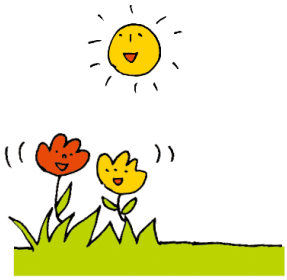


親の会にも手伝ってもらってのキャンプ企画。子どもたちの就寝時間後、親にとってもいい機会だと NPO のスタッフと夜中まで情報交換をしていたら、子どもたちがやってきて「なんで大人はまだ起きてるの！？」と怒られてしまいました。。。

「えー、NPO ってそこまでするの！？」
木のてっぺんまで子どもたちが登って児童館の先生もお父さんお母さんも心配そう。子どもたちはイキイキ。危機管理は大切。でもいつもよりちょっと危険なことにチャレンジするのも醍醐味。NPO の専門性によって、事前にどこまで OK とするか打ち合わせしておきましょう。

天気が急に変わって大騒ぎ！
野外プログラムのときは雨のときの想定もしておきましょう。

## ■ 残念ながら実現できなかったプログラム



ぼつ-つぼ【没壺】(名)
日の目を見なかった名アイディアを
詰め込んでおく陶器のこと。

NPOと児童館の協働は他に例がない取り組みだからこそ、そんな簡単に実現もしないもの。成功事例の陰には莫大な数の「ボツ」アイデアが。惜しくも日の目を見なかったプログラムを、その理由付きでご紹介します。

### ナイトハイク

児童館の「夜のプログラムがやりたい！」「山に登りたい」という希望から盛り上がり、提案されたナイトハイク登山。安全性が確保できずNGに・・・。児童館とNPOが協働することで「なんでもできる！」とわくわく感が盛り上がることは多いのですが、要所要所では冷静な判断も必要です。

### 八つ橋を作る

NPOではなく商売としてされている八つ橋屋さんにお願いするような種類のものなので、この事業の趣旨にはそぐわないと判断されました。ただし、伝統工芸を守る活動をしているNPOもあり、「職人さんから学ぶ」というプログラムを行った実績もあるので、一概に商売が絡むからNPOではできない、とは言えない面もあります。

### お城を丸ごと借り切っての忍者ごっこプログラム

アイデアだしの時は夢が膨らんだのですが、後日冷静な頭で改めて考えると「許可とか申請とかいろいろ必要だしやっぱりムリ！」わいわい楽しくアイデアを出し合うことで、できないと思っていたことができてしまったりすることもありますが、どこかのタイミングでスッパリと諦めて代替案を考えることも重要です。

### 数か月にわたって行う連続プログラム

プログラムの途中までは順調だったのですが、最後の最後、仕上げの段階で新型インフルエンザが流行し、児童館が臨時閉館。年度末も迫っていたため代替日程が組めず、児童館の職員とNPOだけで仕上げました。

## ■　「こう考えてみよう」プログラム作りのヒント

これまでのNPOどんどこプロジェクトの経験から、プログラム作りに困ったときのヒントをまとめました。

### ・子どもたちの声を聞いてみよう

原点は子どもたちの好奇心。子どもの「やってみたい」を聞いてみましょう。例えば金沢では児童館でお泊まり会を行い、そこにNPOがいろいろなプログラムを提供しました。子どもたちが実行委員会を作って主体的にプログラムを作ることも。普段は接さないNPOの大人の人たちとプログラムを作る体験は大きな学びになります。

### ・地域にある資源を見てみよう

山、海、川、干潟などの地域の身近な自然や、その地域の歴史・文化をひも解いてみましょう。例えば京都では銀閣寺周辺を歩いて歴史探索、といったような地域性あふれるプログラムが行われています。

### ・子どもたちに伝えたいメッセージを考えてみよう

地域の環境を守りたい、挨拶ができる子になってほしいなど、先生方が子どもに託したい思いからプログラムを作ることもあります。例えば仙台では食べ物の大切さやマナーを伝えたいと、お米の食べ比べなどの食育プログラムが行われました。ただし大人の押しつけになって子どもの主体性を奪わないよう注意が必要です。

### ・ＮＰＯ支援センターに相談してみよう

各地域にある「NPO支援センター」はNPOといろいろな団体をつなぐための機関です。「こんなことをやりたい」というアイデアが具体的になっているならば、NPO支援センターに相談をしてみることでNPOを紹介してもらえることもあります。
各地のNPO支援センターは日本NPOセンターのウェブサイト（www.jnpoc.ne;jp）をご覧ください。

## ■ こんな工夫をしました

協働に不安や課題はつきもの。乗り越えてきた「知恵」や「工夫」をご紹介します。

**Q. 初めての取り組みで子どもたちがたくさん参加してくれるか不安です。（児童館厚生員）**

A. 子どもの中に放送委員がいて、学校の校内放送で呼び掛けてくれました。（児童館厚生員）

**Q. 児童館でプログラムをするのは初めてで、子どもがどんな様子かわかりません。（NPOスタッフ）**

A. 打ち合わせが終わるころに子どもが児童館に来る、という時間帯を狙って打ち合わせの時間を調整しました。（児童館厚生員）

**Q. 子どもを対象にプログラムをやったことがないので、うまく進められるか不安です。（NPOスタッフ）**

A. 事前に児童館の先生にも相談しながら、いつもより説明を丁寧にしたり、時間をゆったり取るなど、子ども向けにプログラムをアレンジしました。結果的に大人向けにもわかりやすいプログラムになったと思います。（NPOスタッフ）

**Q. まちあるきプログラムをするのですが、子どもたちがご近所に迷惑をかけないか不安です。（児童館厚生員）**

A. 事前にご近所さんを戸別に回ってご説明をしました。「お騒がせしますがご協力ください」という趣旨ですが、児童館のことを知っていただくきっかけになりました。（児童館厚生員）

**Q. これまでにやったことのないくらい大きな規模のイベントになりそうで、スタッフが足りるか不安です。（児童館厚生員）**

A. 地域の人にボランティアとしての協力をお願いしました。お礼として児童館オリジナルの缶バッジを作製して配布したところ、継続的な協力者になってくださいました。（児童館厚生員）

A. 子どもたちからスタッフを募りました。プログラムの後も主体性が出てきたように思います。（児童館厚生員）

**Q. 児童館の要望にぴったり当てはまるNPOがありません。（NPO支援センタースタッフ）**

A. ふだんの活動を応用して対応できるNPOにお願いしてみたら、「新たなチャレンジになる」と引き受けてくださいました。（NPO支援センタースタッフ）

**Q. 前回の会議で決めたことが次の会議で変わってしまって前に進みません。（NPO支援センタースタッフ）**

A. 記録をきちんと見えるように残して、決まったことを共有するように工夫しました。（NPO支援センタースタッフ）

## ■　ＮＰＯどんどこプロジェクトの実績

### ２００７年度

【仙台市】

■通町児童館

竹筒でお米を炊こう

食へのマナー・精進料理に触れる（協力NPO：仙台男子厨房に入ろう会）

宮城の郷土料理を食べよう（協力NPO：スローフード宮城）

新米の食べくらべをしましょう（協力NPO：環境保全米ネットワーク）

■東四郎丸児童館

星空コンサート（協力NPO：仙台二胡の会）

ピカソもびっくり！みんなでアート！（協力NPO：特定非営利活動法人ふれあいサポート館アトリエ）

名取川探検　～きれいな河川敷にしたいな～　調査とゴミ拾いと異世代間交流

（協力NPO：特定非営利活動法人広瀬川の清流を守る会）

東中田ウォークラリー～わたしたちの街を知ろう～（協力NPO：特定非営利活動法人都市デザインワークス）

【金沢市】

■三和児童館

草木染の体験を障害児童と共に（自然は回る）

（協力NPO：特定非営利活動法人地域活動支援センターポレポレ・造形の会）

カレーライスお食事会にて「水すまし号　発進！」（水を汚さずに捨てる＝水は回る）

（協力NPO：いしかわ水辺再生研究会）

かえっこバザールin三和（おもちゃ交換会＝おもちゃは回る）（協力NPO：金沢エコライフくらぶ）

三和児童館で看板をつくろう！（アートで表現＝くるくる回る看板づくり）

（協力NPO：金沢市民芸術村アート工房サポートスタッフアートアンツ）

■浅野町児童館（2泊3日連続開催お泊まり会として実施）

地球探検まっぷづくり（協力NPO：特定非営利活動法人ガイヤ自然学校）

秘密基地づくりと体験遊び（協力NPO：自遊創生団）

環境にやさしいエコクッキングと、廃油キャンドルづくり！（協力NPO：金沢エコライフくらぶ）

プロジェクト記録を映像でつくろう！（協力NPO：コミュニティ・メディア・リソース）

【北九州市】

■大里東児童館

ほしぞらとであおう　（協力NPO：特定非営利活動法人MYP）

しぜんとであおう　（協力NPO：北九州インタープリテーション研究会）

マージャンとであおう　（協力NPO：元気が出る麻雀教室）

■香月児童館・小嶺児童館

カツキ＆コミネの宇宙をディープに知ろう（協力NPO：特定非営利活動法人MYP）

カツキ＆コミネの自然をディープに知ろう（協力NPO：北九州ネイチャーゲームの会）

むかしむかしのカツキ＆コミネをディープに知ろう（協力NPO：特定非営利活動法人九州コミュニティ研究所）

カツキ＆コミネの環境をディープに知ろう（協力NPO：特定非営利活動法人シニアネット北九州）

## ２００８年度

【仙台市】

■通町児童館

干し柿をつくる会（協力 NPO：北山・新坂地区歴史と文化財ガイドボランティアの会）

■東四郎丸児童館

あめあめ、ふれふれエコワールド～ペットボトルは、もう1人のぼく、わたし～

（協力 NPO：特定非営利活動法人ふれあいサポート館アトリエ）

■立町マイスクール児童館

科学者を知ろう

（協力 NPO：特定非営利活動法人まなびのたねネットワーク、特定非営利活動法人ナチュラルサイエンス

カバン職人を知ろう（協力 NPO：特定非営利活動法人まなびのたねネットワーク）

お茶の先生を知ろう（協力 NPO：特定非営利活動法人まなびのたねネットワーク）

■鶴ヶ谷児童館（多賀城市）

焼きイモ会でジャグリング（協力 NPO：ホゴノプロフィス、朝市夕市ネットワーク）

おにぎりワークショップと干し柿づくり

（協力 NPO：NPO 法人スローフード宮城、NPO 法人環境保全米ネットワーク）

ちょっとおしゃれなクリスマスケーキづくり（協力 NPO：男子厨房に入ろう会）

年末餅つき大会（協力 NPO：NPO 法人夢くりはら21、NPO 法人環境保全米ネットワーク）

【金沢市】

■三和児童館

かえっこバザールin三和（協力 NPO：金沢エコライフクラブ）

秘密基地プロジェクト内覧会（協力 NPO：自遊創生団）

■浅野町児童館

もっと地域を！秘密基地プロジェクトPart2（協力 NPO：自遊創生団）

【京都市】

■嵐山東児童館

愛宕山に登ろう（協力 NPO：京都愛宕研究会）

保存食について学ぼう（協力 NPO：豆料理クラブ）

自然とあそぼう（協力 NPO：特定非営利活動法人芦生自然学校）

■西京極児童館

愛宕山に登ろう（協力 NPO：京都愛宕研究会）

京都の伝統工芸品を作ろう（協力 NPO：特定非営利活動法人京都匠塾）

京都の町を散策しよう（協力 NPO：京都散策愛好会）

ふろしきについて学ぼう（協力 NPO：ふろしき研究会）

【北九州市】

■大里東児童館

門司の星空ぼうけん（協力NPO：特定非営利活動法人MYP）

門司の生き物ぼうけん（協力 NPO：北九州インタープリテーション研究会）

トムソーヤになろう！―秘密基地づくり（協力 NPO：日本キチ学会）

■小嶺児童館

小嶺で異次元をつくろう！（協力 NPO：特定非営利活動法人九州コミュニティ研究所）

小嶺の星空を体験しよう！（協力NPO：特定非営利活動法人MYP）
■南小倉児童館
星空ウォッチング in 児童館（協力NPO：特定非営利活動法人MYP）
デイキャンプ in 平尾台（協力 NPO：ひらおだい自然塾）
ネイチャーゲーム in 山田緑地（協力NPO：北九州ネイチャーゲームの会）

## ２００９年度

【仙台市】
■立町マイスクール児童館
立町今昔　～立町のマップをつくろう！～（協力NPO：NPO タウンラボ）
立町今昔　仙台の文化　お正月には何食べる？（協力NPO：NPO タウンラボ、食育 NPO「おむすび」）
地域のお店を探検しよう（協力NPO：NPO タウンラボ）
■荒巻児童館
みっか！ぼーすプロジェクト！もったいないもの探偵団～もったいないものさがしその1
（協力NPO：特定非営利活動法人杜の都仙台ナショナルトラスト）
もったいないものさがしその2　エコ料理と作法（協力NPO：食育NPOおむすび）
もったいものさがしその3　実践！エコ活動（協力NPO：未来（あした）を植えるプロジェクト実行委員会）
【金沢市】
■富樫児童館
お米の赤ゃんを育てよう！（協力NPO：一歩一歩楽園山科農園）
お米を守る「アートかかし」を作ろう！
（協力NPO：金沢市民芸術村アートアンツプロジェクトチーム・金沢美大ワークショップ部 ）
■浅野町児童館
地域の力で秘密基地（協力NPO：仮称・浅野町基地プロジェクト）
■三和児童館
お兄ちゃんたちの「かえっこバザール」（協力NPO：金沢エコライフくらぶ ）
夏休み、おもしいげん(面白い)あそび （協力NPO：特定非営利活動法人かなざわ総合スポーツクラブ）
【燕市】
■白山町児童館
ホタルを見に行こう（協力NPO：三条ホタルの会）
火と仲良くなろう（白山町児童館お泊まり会）（協力NPO：環境 NPO 良環）
路地裏であそばんしょ（協力NPO：特定非営利活動法人まちづくり学校、にいがた県央マイスタークラブ）
だがしや楽校（協力NPO：特定非営利活動法人ヒーローズファーム）
■小中川児童館
ホタルを見に行こう（協力NPO：三条ホタルの会）
児童館まつり （協力NPO：特定非営利活動法人ヒーローズファーム）
小中川探検隊ミッション「ハザードマップを作ろう！」
【京都市】
■西京極児童館
保存食について学ぼう、保存食を使って調理してみよう！（協力NPO：豆料理クラブ）
愛宕山に登ろう！－愛宕山の歴史や山の登り方を知る－（協力NPO：京都愛宕山研究会）

苔盆栽をつくる！－親子で苔盆栽づくりを楽しむ－（協力NPO：特定非営利活動法人鉾杉塾）
■嵐山東児童館
伝統技術の体験！－みんなで、ろくろ体験－（協力NPO：特定非営利活動法人京都匠塾）
京都の町をめぐり、歴史を知る！（協力NPO：京都史跡ガイドボランティア協会）
自然と遊ぼう～花背山の家で雪遊び！－京都の冬の自然を知る－
（協力NPO：特定非営利活動法人芹生自然学校）
【北九州市】
■門司エリア：大里東児童館、大里西児童館、大里児童館、風師児童館
自然を楽しもう（協力NPO：北九州インタープリテーション研究会）
表現を楽しもう（協力NPO：劇団C4）
野外活動にチャレンジしよう（協力NPO：KID's work）
■南小倉エリア：到津児童館、南小倉児童館
干潟を楽しもう（協力NPO：北九州インタープリテーション研究会）
自然を楽しもう（協力NPO：北九州ネイチャーゲームの会）
■小嶺・楠橋エリア：小嶺児童館、楠橋児童館
ダンボール基地づくりと、野外活動にチャレンジしよう（協力NPO：特定非営利活動法人遊び塾ありギリス）

## ２０１０年度

【燕市】
■小中川児童館
小中川児童館祭（協力NPO：エコライフを楽しむ会）
ダンスフェスティバル（協力NPO：新潟総踊り祭実行委員会）
■杉名児童館
わくわく みんなで里山あそび（協力NPO：三条ホタルの会）
モコゲーム（疑似体験プログラム、手話ソング）（協力NPO：手話レクチャーハンズ）
■白山町児童館
燕楽・白山町児童館お泊まり会～下って、歩いて、あそばんしょ～（協力NPO：大曲河川公園ファンクラブ）
路地裏であそばんしょ～職人さんに会いに行こう～（協力NPO：にいがた県央マイスタークラブ）
■東児童センター
動物ドキドキまちあるき（協力NPO：まちづくり学校）
星空を観察しよう（協力NPO：星空ファクトリー）
【京都市】
■嵐山東児童館
京都の冬の自然を知る－冬山での野外活動（協力NPO：特定非営利活動法人芹生自然学校）
■嵯峨野児童館
京都の大文字送り火の歴史・ルーツを探る・大文字山登山（協力NPO：京都史跡ガイドボランティア協会）
野外だ！料理だ！おいしいぞ！－野外料理体験
（協力NPO：（財）宇多野ユースホステル、一般財団 Positive Earth Nature's School）
■常盤野児童館
アレルギー除去食等食育のはなしと試食大会
（協力NPO：特定非営利活動法人アレルギーネットワーク京都ぴいちゃんねっと）
アロマでリラックス！－アロマテラピー体験（協力NPO：NPO ナチュラルスペースヴェルジュ）

■西賀茂児童館

手作り神輿のためのペーパークラフト体験（協力NPO：人形劇サポートシステムシアターズーイ）

■西京極児童館

愛宕山に登ろう！！（協力NPO：京都愛宕山研究会）

■深草児童館

深草の竹について学ぶ！竹の貯金箱をつくろう！（協力NPO：京都・深草ふれあい隊竹と緑）

食育のはなしと体験（協力NPO：特定非営利活動法人おふぃすパワーアップ）

【北九州市】

■小倉北エリア：到津児童館、南小倉児童館、中島児童館、三郎丸児童館、長浜児童館

板櫃川であそぼう（協力NPO：KID's work）

曽根干潟であそぼう（協力NPO：北九州インタープリテーション研究会）

小倉城であそぼう（協力NPO：特定非営利活動法人創を考える会・北九州 ）

■小倉南エリア：菅生児童館、南曽根児童館、横代児童館

曽根干潟であそぼう（協力NPO：北九州インタープリテーション研究会）

■小嶺・楠橋エリア：小嶺児童館、楠橋児童館

児童館1泊2日キャンプ（協力NPO：KID's work）

各プログラムの詳細については www.npo-dondoko.net をご覧ください。

子どものための児童館とＮＰＯの協働事業　2007 年度－2010 年度 報告書
認定特定非営利活動法人　日本ＮＰＯセンター
〒100-0004 東京都千代田区大手町２－２－１ 新大手町ビル２４５
ＴＥＬ：０３－３５１０－０８５５　ＦＡＸ：０３－３５１０－０８５６
日本ＮＰＯセンターウェブサイト　www.jnpoc.ne.jp
プロジェクトウェブサイト　www.npo-dondoko.net
第１版　2011 年７月７日　第２版　2012 年６月１日